

編纂所だより

大阪市史編纂所（発行）

平成19年7月発行

第29号

大阪市史料調査会（編集）

〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2

大阪市立中央図書館内

06-6539-3333

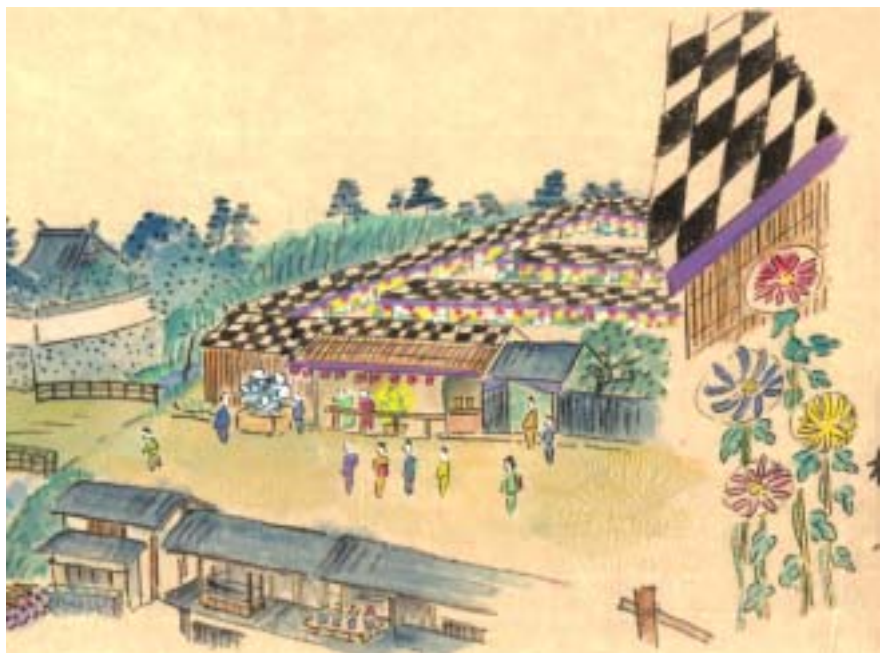
憎い可愛い 声も菊月～忘れられた大阪の花名所～

上町台地は大阪の「発祥^{はっしょう}の地」です。江戸時代に入って船場・島之内^{せんばん しまのうち}に町の中心が移ると、上町台地は「郊外^{こうがい}」となりました。大坂の人々にとって、「上町台地」はハイキングや行楽（当時の言葉で「遊山^{ゆうざん}」といった）の場所でした。当時の上町台地には緑があふれ、季節の美しい花が咲き誇っていたことでしょう。ちなみに高津宮^{こうづぐう}を流れていた梅川^{うめがわ}は、一帯に梅林が広がっていたため、その名が付いたといわれます（高津宮境内には梅川の史蹟として「梅乃橋^{うめのはし}」が残っています）。船場・島之内に近いことや、寺町が隣接していたこともあり、植木屋などの園芸職人が住んでいました。有名どころでは「松井吉助^{まついきちすけ}」がいます。鴻池^{こうのいけ}や加嶋屋^{かじまや}といった豪商の庭造りを手がけた吉助は、「吉助牡丹^{きちすけぼたん}」と呼ばれる牡丹造りの名人でした。咲鐘成^{あかつきのかねなる}は次のように紹介しています。

浪花で栽種を商売にする家は多く、（中略）高津の吉助はその先駆けである。前栽^{せんざい}に日本・中国の銘木^{めいぼく}が植えられ『莊子^{そうし}が八千代の椿』『赤梅檀^{あかせんだん}の香木』などあって諸州へ船で送られている（中略）四時の花は絶えず、見なれない珍奇の品種も鉢で育てられ、初夏の牡丹、晩秋の菊など、咲き誇る花壇の美観に見物客も群がっている。（『摂津名所図会大成^{せつづめいしよすえたいせい}』橋爪節也^{うめがつじ}訳）。

さらに高津の「梅ヶ辻^{うめがつじ}」（高津宮表門の坂道を東へ谷町筋との交差点の東北角）にあったのが「翫菊庵^{かんぎくあん}」です。

天皇家の紋章としても知られる菊ですが、9月9日は「重陽^{ちゅうよう}」という「五節句」の一つで、「菊の節句」として古くから尊重されてきました。江戸時代には菊の栽培熟の高まりとともに、「菊合わせ」と呼ばれる品評会も開催されました。翫菊庵は明治以降に開かれたようですが、詳しい年代はわかりません。宇田川文海^{うだがわぶんかい}は『大阪繁昌誌^{おさかはんじょうし}』の中で、次のよ



翫菊庵（「浪華名所図」）

うに紹介しています。

菊は此の庵を第一とす。例年花壇を作り人形細工等ありて、衆人の観覧に供す。一茎五六十輪もしくは百輪を咲かせたるものあり。庵主の丹精もっとも賞するに足れり。

渡辺霞亭も次のように紹介しています。

以前は住僧の物数奇で、同好の人にのみ見せていたが、往年は商売的になって、木戸銭を取る。人形細工をする。夜に入っては紅提灯、瑠璃灯などをともして、夜の菊というのを見せる。随分俗気は帯できたが、木振り、葉の色、花の姿など、矢張り他に真似人はあるまい。

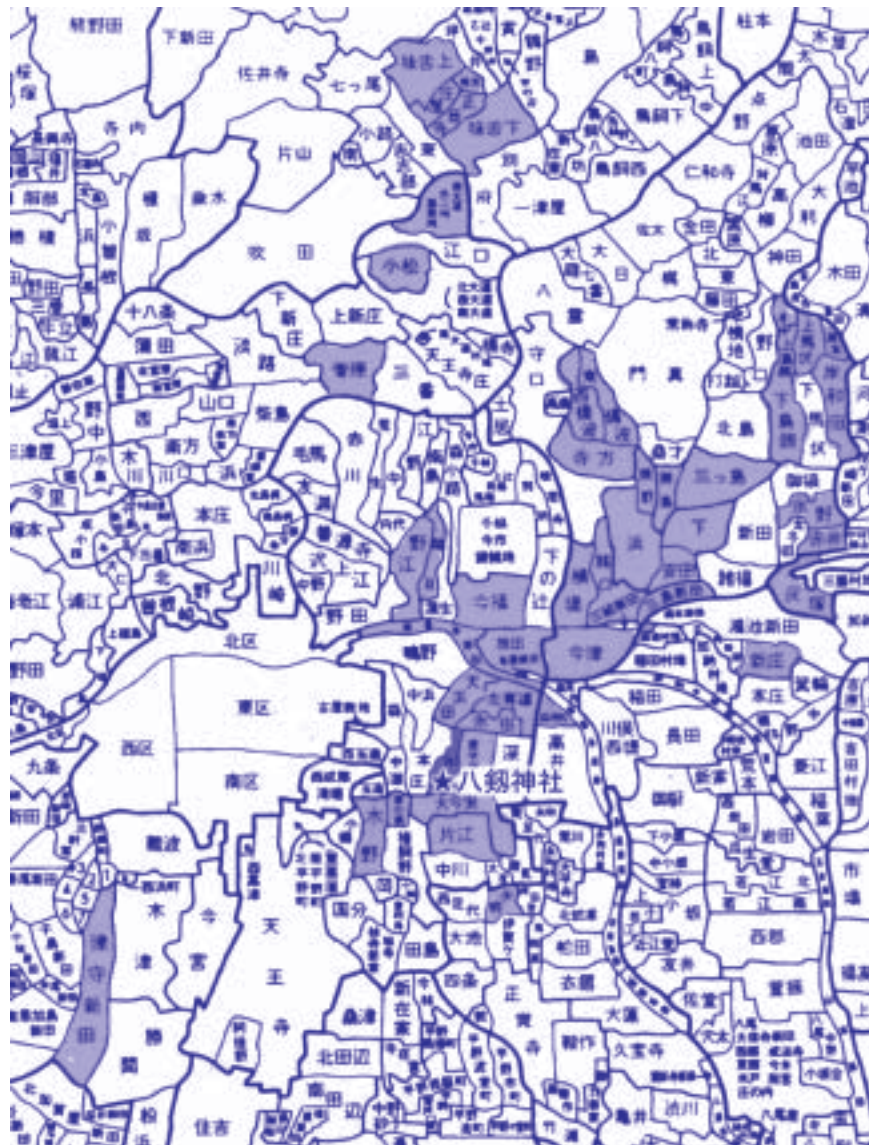
大阪随一の菊所「翫菊庵」ですが、明治38年(1905)に閉鎖されました。しかし翫菊庵が培った菊細工の技術は、後年、枚方の菊人形へといかされ、長く人々に親しまれました。(古川武志)

神主さんは大忙し！？ - 『東成郡神社関係史料』(大阪市史史料69輯)を刊行 -

このたび市史編纂所では『東成郡神社関係史料』という史料集を刊行しました。玉造稲荷神社・白山神社・八剱神社(現在の八王子神社)という東成郡にゆかりのある3つの神社に残されてきた、神社のありかたや地域での信仰の様子を知ることのできる近世～昭和戦前期の史料を紹介しています。

調査をすすめるなかで、いろいろな新しい発見があったのですが、ここでは、神主さんの掛け持ちの様子についてご紹介しましょう。

東成郡西今里村の八剱神社の神主だった友田一真という人物が、明治4年(1871)に自分がどの神社で神主を勤めているかについての書類(「摂河氏神兼勤村々神名帳」)を作っています。そこに記された46の村名に、印をつけてみました。河内国茨田郡19ヶ村、摂津国東成郡18ヶ村をはじめとして大変広い範囲にわたっていることが分かります。そのほとんどは、友田家



友田一真が神主を勤めていた村々(『大阪百年史』付図に加筆)

が代々勤めてきたものであると記されています。小さな神社では、神主さんが常勤することは難しく、いくつもの神社を掛け持ちしていましたが、具体的なことはこれまでよくわかっていませんでした。この史料は、幕末維新期の掛け持ちの様子が分かる、大変めずらしいものといえます。

たくさん掛け持ちをした結果、お祭りの段取りなどは大変だったようです。天保10年(1839)に、^{さいちゅうしんさいしゅっきんばしょにつぎ}いつどこでどのような神事を行うかをまとめた「歳中神祭出勤場所日記」は、その一端をうかがわせる史料です。

1月の場合、1日に^{もりがわち}森河内村・^{ひがしいまざと}東今里村で神楽を奉納、5日ごろに^{はなてん}放出村で年頭の儀礼、そして12日には^{ひがしこうづ}東高津村・^{おぼせ}小橋村・^{かたえ}片江村・^{もろぐち}諸口村で御湯という息災を願う湯立ての神事を行い、さらに^{やすだ}安田村・^{よこづみ}横堤村では神楽を奉納することになっています。このあと



友田一真像(八王子神社蔵)

も、14日には2つの村で御湯、16日には3つの村で御湯...といった具合に新しい年を迎えて各地で神事が続きます。もちろん、八剱神社という本拠地でも神事が行われていたはずで

す。神事には、いろいろな道具を持っていかなければならない場合もあったでしょうが、タクシーで移動するわけでもありません。いったい神主さんや神子さんたちはどのようにお勤めを果たされていたのでしょうか。まだまだよく分からないことがたくさんありそうです。

あるいは、氏子さんたちが伝えてこられた史料などをつきあわせてみると、もっと色々なことが分かるかもしれません。うちの神社にもそういう史料がある！とか、うちの祖父が氏子の総代をしてたらしいけど、古い紙になんか書いたもんがある！という方がいらっしゃったら、大阪市史編纂所までお知らせいただくと大変ありがたく思います。(松岡弘之)

○大阪市史史料第69輯

『東成郡神社関係史料』発売中

(1冊1,800円+送料290円)

取り扱い書店 旭屋書店(梅田本店・天王寺MIO店)、ジュンク堂書店(大阪本店・難波店)、ユーゴー書店(阿倍野店)、四天王寺書林、大阪歴史博物館(なお、書店では消費税が加算されます)

通信販売も受け付けています。郵便局そなえつけの、青色の郵便振替用紙でご送金ください。

口座番号 00930-9-82241

加入者名 大阪市史料調査会

備考欄にご購入希望の号数と冊数をご記入ください。そのほか、くわしいことは、お問い合わせください。

また、大阪市史編纂所で直接販売もしています。

○企画展示「城南地域の再発見」

平成19年9月1日~13日(9月7日は休館)

大阪市立中央図書館1階 エントランスギャラリーで、北平野町村にかかわる史料、また真田山陸軍墓地、生玉神社の落語、織田作之助、直木三十五、城南地域の風景などについてのパネル等の展示を行います。

(以上お問い合わせ先)

大阪市西区北堀江4-3-2 大阪市立中央図書館3階

(地下鉄千日前線・鶴見緑地線西長堀駅下車)

電話06-6539-3333・FAX06-6539-3330

第6回極東選手権競技大会（大正12年）

同記念写真帖より

この夏、大阪では世界陸上が行われます。こういった大規模で国際的なスポーツ大会は、大阪で何度か行われているわけですが、その最初はいつかという、大正12年（1923）に行われた、第6回極東選手権競技大会になるでしょう。

この大会が大阪で行われたのには、理由がありました。極東選手権とは、日本・フィリピン・中国の三ヶ国による、陸上競技・球技等の総合スポーツ大会で、もともと大正2年（1913）、フィリピンの体育協会が中国・日本に呼びかけてマニラで開催したものです。もっとも日本体育協会は最初は呼びかけに応じず、参加したのは第2回上海大会（大正4年）からです。その後第3回大会（大正6年）は日本が主催国となり、東京で開催されたのですが、大正8年にふたたびマニラで開催されることになった第4回大会は、開催時期等をめぐって話し合いがつかず、日本体育協会はまたまた不参加となりました。

しかしこのとき、大阪の体育団体が臨時に「日本青年運動クラブ」を組織し、マニラ大会に選手を送ったのです。そのことがきっかけとなり、第5回の上海大会（大正10年）のあと、第6回大会が大阪で行われることになったのでした。

当時、大阪市には大規模な運動競技場はまだありませんでした。そこで大阪市は西区八幡屋、現在は港区の、大阪プール・中央体育館のある八幡屋公園のところに、市立運動場を建設しました。延べ面積38,000平方メートルの敷地内に一周400メートルのトラックをはじめ、プール・野球場・庭球場などを設けたもので、当時「東洋一」と称されました。

大会は大正12年5月21日～26日、秩父宮雍仁親王ちちぶのみやすひとしんのうを大会総裁、池上四郎いけがみしろう大阪市長を副総裁として盛大に開催されました。日本は球技ではフィリピンに及ばなかったものの、陸上競技・水上競技で健闘し、総合優勝を飾りました。この間、スタンドは連日大入り満員の盛況であったとのことです。（藤田実）



▼大阪市史編纂所では、所の仕事の紹介や、刊行物の案内などのため、ホームページを開設しています。アドレスは下記のとおりです。または主だった検索エンジンで、「大阪市史編纂所（おおさかししへんさんしょ）」でおさがしてください。

<http://www.oml.city.osaka.jp/hensansho/>